



株主のみなさまへ  
第55期 報告書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

株式会社ビー・エム・エル



証券コード：4694

## 目次

株主のみなさまへ…………… 1

### 特集

グループ会社紹介

(株)盛岡臨床検査センター… 4

営業の概況…………… 6

連結決算の概要…………… 8

BML NEWS…………… 11

株式の状況…………… 12

会社概要…………… 13



# 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第55期（2009年4月1日～2010年3月31日）の概況および今後の展望について述べさせていただきます。

代表取締役社長  
荒井 裕（あらい ゆたか）



## 第55期の経営環境と業績について

### 新規取引先の拡大に注力した結果、 過去最高の決算を達成できました。

医療業界では、少子高齢化が進行する中、地域医療を守る仕組みの構築や急性期医療が実施できる体制の確立など、医療制度改革が進められています。また、一昨年からは生活習慣病予防としての特定健康診査・特定保険指導が開始され、人々の健康への意識は着実に向上しています。

当期の受託臨床検査業界は、2年毎に実施されている診療報酬改定の年度に当たらず、検体検査の受託価格は比較的安定して推移いたしました。こうした環境の下、当社グループは、期初に臨床検査事業と電子カルテ事業がより一体となった事業活動を行うことを目的として、両事業を統合し、コアビジネスである臨床検査事業を中心に新規取引

先拡大に努めました。

その結果、連結売上高は792億59百万円（前期比2.7%増）、営業利益が64億98百万円（同16.2%増）、経常利益が67億50百万円（同15.5%増）、当期純利益が35億50百万円（同15.4%増）となり、いずれの指標でも過去最高の決算を達成することができました。

## 事業別の状況について

### 臨床検査事業では、新フロンティア完成により、 翌日報告ができる検査が拡大しました。

臨床検査の営業活動については、当期もクリニック市場のシェア拡大と同時に、大型施設への提案活動による営業活動を展開いたしました。

検査項目別には、ホルモン、腫瘍マーカーなどのノンリ

ア項目の他、病理・細胞診検査が伸びました。次世代ラボシステムについては、前期に検査前処理工程である新フロンティアが完成し、本格稼働を開始しました。これにより、これまで翌日に報告ができなかった甲状腺ホルモンなどのノンリア項目について、翌日報告が可能となり、当期においてもその対象地域を拡大しました。

なお、第3四半期後半には、新型インフルエンザの感染拡大による患者の受診控えから、検体数が伸び悩む局面がありました。第4四半期以降、新型インフルエンザが収束に向かうとともに、検体数も回復基調を辿りました。

**医療情報システム事業では、電子カルテの新規導入は前期並みでしたが、既存ユーザーのリプレースが好調に推移しました。**

当期の電子カルテの新規導入件数は、253件となり、前年度の254件と同水準になりました。一方、既存ユーザーへのリプレースについては、期初予想を上回る実績となりました。また、レセプト電算ソフトについては、昨年11月に補助金の交付が決定して以降、受注が急増し、期初予想の200件を大幅に上回る約1,200件のユーザーに納入しました。

また、昨年11月には、新たな電子カルテシステムの開発に向け、(株)イーエムシステムズと共同開発会社設立で合

意、今年2月に(株)メデファクトを設立いたしました。(11ページ BML NEWSをご参照下さい)

食品衛生事業については、景気悪化の影響による、クライアント企業の経費削減ニーズの高まりから、これまでとは一転して厳しい事業環境となりました。

**研究開発では、オーダーメイド医療の取り組みとして、癌や白血病の治療に役立つ検査の開発に重点を置きます。**

肺癌治療薬イレッサの有効性を調べるEGFR遺伝子検査、大腸癌治療薬アービタックスの有効性を調べるEGFR蛋白やK-ras遺伝子変異解析、そして慢性骨髄性白血病治療薬の耐性を調べるBCR/ABL変異解析など、治療の効果を予測する検査が大きく成長しています。

また、抗癌剤イリノテカンの副作用を予測するUGT1A1検査につきましても、前期に保険適用となり、順調な伸びを示しています。

新規開発項目としては、今年3月より、B型肝炎の治療ガイドラインで薦める標準治療薬エンテカビルの耐性を調べる検査で、当社が得意とするインバーダー法を用いた検査として、今後のニーズの高まりに期待しています。



## 中期的な戦略について

### システム、人材の両面から、 更なるユーザーサービスの向上を追求してまいります。

今期は、診療報酬改定により、保険点数は全体でプラス改定となりましたが、当社の主力検査の一つである生化学検査の包括項目については引き下げとなっています。また、業界内の競争は激化するものと予測しています。こうした環境の下、昨年秋に公表しました中期経営計画「BML-ADVANCE 2012」に掲げた施策を着実に推進してまいります。具体的には、マーケットのシェア拡大に注力していくとともに、営業力強化の観点から、教育研修の充実など人材の育成を図ってまいります。

また、ユーザーサービスの向上として、今年4月にインターネットによる検査結果の報告サービスである「Web照会サービス」をリリースしました。医療機関を対象としたこのサービスは、インターネットが使える環境であれば、どこにいてもリアルタイムに検査結果を確認することが可能になり、ユーザーサポートの有効なツールになり得るものと期待しています。

また、検査部門の生産性向上としては、次世代ラボシステムに続く更なる取り組みとして、細菌検査の自動化である「シンフォニー・バクテオロジー」、EIA法、ELISA法の自動化である「シンフォニー・免疫ロジー」を推進してまいります。

この他、今年1月に、米国コーヴァンス社と国際共同治験用ラボの共同設立について、業務提携を行い、今夏のスタートに向けて準備を進めています。(11ページ BML NEWSをご参照下さい)

## 株主のみなさまへ

### 目標とする経営指標を着実に達成し、 企業価値の向上に努めます。

当期は、当社創立55周年に当たることから、期末配当金を普通配当15円に創立55周年記念配当として10円を加えた25円とし、年間では40円とさせていただきます。

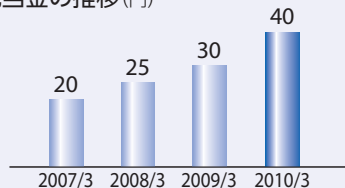
また当社は、目標とする経営指標として、経常利益率10%、ROE8%を掲げておりますが、ROEについては、前期の7.8%から8.4%に上昇し、8%を達成いたしました。経常利益率についても、あと少しで手が届くところまでできています。これからも、株主、投資家のみなさまの期待に応え、企業価値の向上に取り組んでまいります。

今後とも、みなさまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

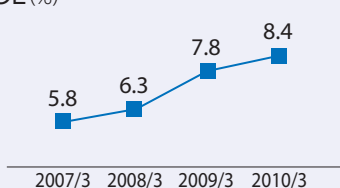
2010年6月

代表取締役社長 荒井 裕

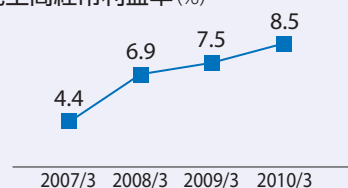
配当金の推移(円)



ROE(%)



売上高経常利益率(%)



# 特集 グループ会社紹介

## 株式会社盛岡臨床検査センター



当社の連結対象子会社19社の中から、今回は北東北の地域密着型検査センターである(株)盛岡臨床検査センターをご紹介します。

北上川から盛岡市街、岩手山を望む

### 地域に根差した臨床検査センターとして

(株)盛岡臨床検査センターは、1967年に盛岡市医師会からの要望を受け、岩手県花巻市に本社を置く医薬品総合卸(株)小田島の臨床検査部門として営業を開始しました。発足以来地域に密着した臨床検査センターとして、地元大学・病院等の医師の方々の協力・支援を受けながら業務を続け、また緊急検査への対応などにより、地域医療の一翼を担ってきました。

1988年には宮古臨床検査センターを開設し、岩手県内の2か所に検査センターを構える体制となり、営業エリアは岩手県全域に拡大しました。また2004年には(株)小田島より会社分割し、独立した法人となり、さらに2006年に、当社との業務・資本提携を実施し、BMLグループの一員となりました。2007年5月には本社・ラボを現在地(盛岡市羽場)に移転し、設備を一層充実させました。

### 臨床検査の処理件数は、東北エリアNo.1を誇る

BMLグループの一員になったことにより、宮城県・秋田県・青森県・岩手県4県のBML各営業所からの受託検査も始まり、1日当たりの処理検体数は約5倍に増加しました。そのために夜間検査体制も整備、また緊急検査体制の充実も図り、ほぼ24時間に近い検査体制ができました。ルーチン検査のみならず細菌検査、病理検査を含めた各種検査を幅広く受託可能な地域密着型の検査センターとして地域医療への貢献はますます大きくなっています。

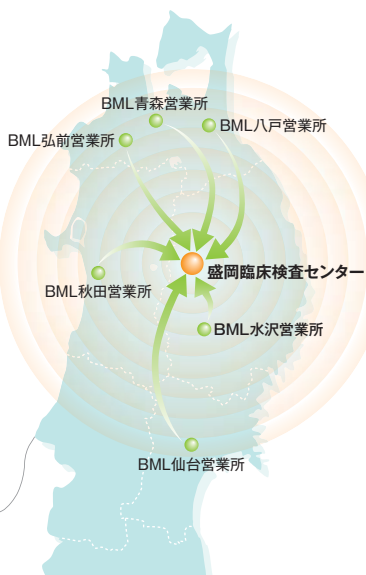
現在では、生化学検査の受託が順調に増えているほか、健診・特定健診なども増えています。今後は需要が増えている臨床検査以外の食品検査、残留農薬、水質検査など新たな分野の検査にも対応できるよう、体制の整備を進めてまいります。また、臨床検査室に特化したマネジメントシステムであるISO15189の年度内取得を目指し、申請の準備を進めております。



## グループ丸となって地域医療に貢献

現在の社員数は、営業人員が約60人、検査人員が約50人を含め、トータルで約140人になります。現在ではBMLのお客様の検体集配業務も代行しています。また同社ラボ内に、BMLグループで病理細胞診検査を行う(株)ピーシーエルジャパンの進出が決まりました。同社が有する東北エリアにおける医療関係者とのネットワークが活用できるものと考えております。

「お客様のニーズに的確に対応し、技術とサービスの質でお客様の信頼にお応えします」「BMLグループの一員として、その役割を果たします」「働き甲斐のある企業風土をつくります」という三つの経営理念のもと、今後もグループ一丸となって東北エリアの地域医療に貢献してまいります。



(株)盛岡臨床検査センターは、東北自動車道の盛岡南ICからすぐ近くにあり、本社建物には盛岡ラボ、BML盛岡営業所が入っているほか、2010年9月にはPCL盛岡病理細胞診センターが入る予定です。

またBMLの青森、八戸、弘前、水沢、秋田、仙台の6営業所とも緊密に連携し、各営業所の検査を受け入れており、当社グループの東北エリアにおける中核的な役割を担っています。

## BMLの検査紹介

## 歯の健康を調べてみませんか ～歯科検査編～



快適な生活をおくるには、食生活に直結する「歯の健康」が重要です。

歯には「むし歯(う蝕)」と「歯周疾患」という2つの大きな病気があり、多くの方が子供のむし歯と加齢による歯周疾患の進行をあきらめているのではないのでしょうか。しかし、歯の病気に関する研究が進み、これらの病気は感染症だということが判ってきました。

う蝕は、主にミュータンス連鎖球菌という口腔内細菌による感染症であることが判っています。また歯周疾患もP.ジンジバリスなどの嫌気性菌が発症の原因とされ、症状の進行に強く関与することも判っています。

当社の歯科検査サービスは、分離培養による細菌検査や高感度のPCR-Invader法による遺伝子検査により、口腔疾患の診断や歯科治療方針の決定・予防プログラム構築に活用いただいています。



「当社歯科検査キット」

### 検査の流れ

#### ①問診(お口のことを質問します)

- ・飲食、歯磨き
- ・口腔内の様子
- ・生活習慣
- ・喫煙の状況



#### ②診査(お口の中を調べます)

- ・プラークの状況(歯の汚れ具合)
- ・むし歯の経験
- ・歯肉の状況
- ・唾液の状況(量とpH)

#### ③検体採取(5分間ガムを噛んで唾液を採り、細菌の状況を調べます)

- ・ミュータンス連鎖球菌(むし歯菌)
- ・ポルフィロモナス ジンジバリス菌数(歯周病原細菌)

# 営業の概況

## 【事業部門別の概況】



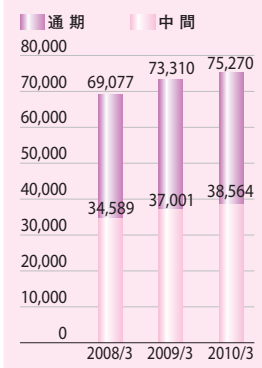
### 検査事業

臨床検査事業については、クリニック市場のシェア拡大を図ると共に、大型施設へのFMS/ブランチラボ方式<sup>※</sup>による提案営業により、事業基盤の拡大を図りました。

当期の検査数量は順調に増加し、受託価格についても小幅の下落にとどまったことから、同事業の売上高は前年同期比2.8%増加しました。利益面についても、増収及び数量効果により増益を確保しました。また、前年度にBML総合研究所にて完成した自動分注の新システム（新フロンティア）の本格稼働により、翌日報告できる検査領域の拡大などユーザーサービスの向上が実現しました。

その他検査事業については、食品衛生事業を営む（株）BMLフード・サイエンスが、景気悪化によるクライアント企業の経費絞り込みの影響等により、食品コンサルティングを中心に受託が減少し、損益面でも大幅な減益となりました。なお、前年度期中に買収した食品衛生事業を営む（株）キュー・アンド・シーが、当期は年間で寄与したことから、事業全体の売上高では、微減収にとどまりました。

◆連結売上高（百万円）



※FMS方式：検査機器・システムなどの賃貸と運営支援  
ブランチラボ方式：院内検査室の運営受託





## 医療情報システム事業

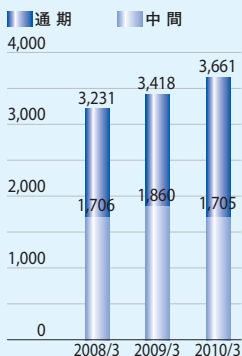
医療情報システム事業については、診療所版電子カルテ「メディカルステーション」(MS)の販促活動に関して、組織改編により臨床検査事業と医療情報システム事業が一体となった営業活動を展開しました。

売上高については、新規設置及びリプレース関連売上に加え、レセプト電算化に対して補助金の交付が決定されたことで、対応ソフトウェアの販売が好調となり、7.1%の増収となりました。

また同事業の損益については、同ソフトウェアは採算が良く、前期の黒字転換から利益幅が拡大しました。



◆連結売上高(百万円)



## その他事業

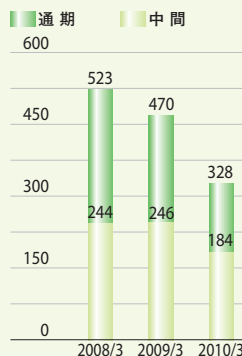
その他事業については、SMO\*/CRO\*事業を営む(株)アレグロが、案件受託が低調に推移し、減収減益となりました。

※SMO：特定の医療機関（治験実施施設）と契約し、その施設に限定して治験業務を支援する機関

※CRO：医薬品の開発において、製薬メーカーが行う治験にかかわる様々な業務のすべてまたは一部を代行・支援する機関



◆連結売上高(百万円)



# 連結決算の概要

## 連結貸借対照表(要旨)

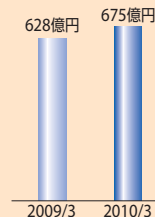
(単位：百万円)

区 分	前連結 会計年度 2009年3月31日現在	当連結 会計年度 2010年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	29,144	34,323
固定資産	33,664	33,194
有形固定資産	26,343	25,781
無形固定資産	3,540	3,173
投資その他の資産	3,780	4,238
<b>資産合計</b>	<b>62,809</b>	<b>67,517</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	16,661	17,864
固定負債	4,665	5,134
<b>負債合計</b>	<b>21,327</b>	<b>22,999</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	40,777	43,638
資本金	6,045	6,045
資本剰余金	6,647	6,646
利益剰余金	29,353	32,210
自己株式	△1,268	△1,263
評価・換算差額等	57	112
新株予約権	39	55
少数株主持分	607	711
<b>純資産合計</b>	<b>41,482</b>	<b>44,518</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>62,809</b>	<b>67,517</b>

## 貸借対照表のポイント

### 総資産 675億円 (前期比 +47億円)

固定資産は有形固定資産、無形固定資産とも対前期比で若干のマイナスとなりましたが、流動資産は現金及び預金の増加があり、当期末の総資産は対前期比47億800万円増加の675億1,700万円となりました。



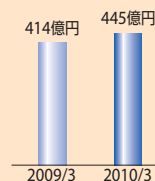
### 負債 229億円 (前期比 +16億円)

流動負債は支払手形及び買掛金、未払法人税等の増加、固定負債はリース債務、退職給付引当金の増加により、当期末の負債は対前期比16億7,100万円増加の229億9,900万円となりました。



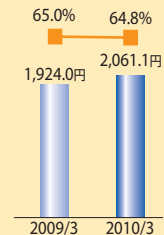
### 純資産 445億円 (前期比 +30億円)

利益剰余金の増加等により、当期末の純資産は対前期比30億3,600万円増加の445億1,800万円となりました。



### 自己資本比率と1株当たり純資産

自己資本比率は対前期比0.2ポイント減少の64.8%となりました。また1株当たり純資産は対前期比137.1円増加の2,061.1円となりました。



## 連結損益計算書 (要旨)

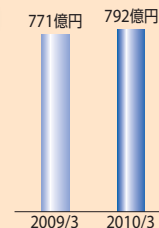
(単位：百万円)

区 分	前連結 会計年度 (2008年4月1日～ 2009年3月31日)	当連結 会計年度 (2009年4月1日～ 2010年3月31日)
売上高	77,198	79,259
売上原価	48,742	50,020
売上総利益	28,456	29,239
販売費及び一般管理費	22,863	22,740
<b>営業利益</b>	<b>5,592</b>	<b>6,498</b>
営業外収益	359	322
営業外費用	107	70
<b>経常利益</b>	<b>5,844</b>	<b>6,750</b>
特別利益	17	48
特別損失	210	313
税金等調整前当期純利益	5,650	6,485
法人税、住民税及び事業税	2,592	2,929
法人税等調整額	△158	△124
少数株主利益	141	129
<b>当期純利益</b>	<b>3,075</b>	<b>3,550</b>

### 損益計算書のポイント

#### 売上高 792億円 (前期比 +20億円)

検査事業において検査数量が順調に増加したこと、受託価格が安定して推移したことから、当期の売上高は対前期比20億6,100万円増加の792億5,900万円となりました。



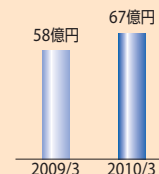
#### 営業利益 64億円 (前期比 +9億円)

増収と販売費及び一般管理費を抑えたことにより、当期の営業利益は対前期比9億600万円増加の64億9,800万円となりました。



#### 経常利益 67億円 (前期比 +9億円)

営業外収益は若干のマイナスとなりましたが、営業外費用は賃貸費用が減少したことなどから改善され、営業外損益は前期並みとなり、当期の経常利益は対前期比9億600万円増加の67億5,000万円となりました。



#### 当期純利益 35億円 (前期比 +4億円)

特別利益として受取配当金や投資有価証券売却益等を計上した一方で、特別損失として固定資産除去損等を計上した結果、当期純利益は対前期比4億7,500万円増加の35億5,000万円となりました。



# 連結決算の概要

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

区分	前連結 会計年度 (2008年4月1日～ 2009年3月31日)	当連結 会計年度 (2009年4月1日～ 2010年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,717	9,388
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,875	△3,653
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,301	△915
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△459	4,819
現金及び現金同等物の期首残高	11,785	11,325
現金及び現金同等物の期末残高	11,325	16,145

## キャッシュ・フロー計算書のポイント

**営業活動によるキャッシュ・フロー 93億円の純収入**(前期比+16億円)

税金等調整前当期純利益が8億円増加したこと、また減価償却費が5億円増加したこと等により、前期比16億7,000万円増加の93億8,800万円の純収入となりました。

## 連結株主資本等変動計算書(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2009年3月31日残高	6,045	6,647	29,353	△1,268	40,777
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△689		△689
連結範囲の変動			0		0
当期純利益			3,550		3,550
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△4		5	0
自己株式処分差損の振替		4	△4		—
当連結会計年度中の変動額合計	—	△0	2,856	4	2,861
2010年3月31日残高	6,045	6,646	32,210	△1,263	43,638

	評価・換算差額等		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
2009年3月31日残高	57	57	39	607	41,482
当連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当					△689
連結範囲の変動					0
当期純利益					3,550
自己株式の取得					△0
自己株式の処分					0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	54	54	15	104	175
当連結会計年度中の変動額合計	54	54	15	104	3,036
2010年3月31日残高	112	112	55	711	44,518



## 米国コーヴァンス社と国際治験ラボ設立で基本合意

2010.1

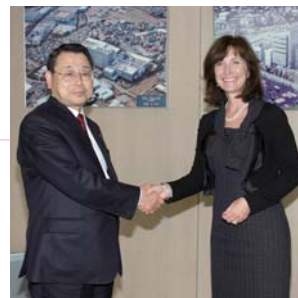
コーヴァンス社は米国に本社を置く、世界有数の医薬品開発支援機関であり、日本においても2004年に日本法人を設立し、事業を展開しています。

2010年1月、アジア治験や国際共同治験など医薬品開発のグローバル化を推進する目的で同社と提携し、国際治験用の共同ラボを設立することで基本合意しました。

### コーヴァンス社

1987年設立、本部は米国ニュージャージー州プリンストン。売上高は約17億ドル、25カ国以上に10,000人以上の従業員を有する。マーケティングリサーチ、前臨床試験から臨床試験及び商業化まで包括的な薬剤開発ソリューションを提供するほか、化学、農業、食品検査サービスも行う。

BML総合研究所を訪れたデボラ・タナー常務取締役(写真右)と荒井社長(写真左)



インディアナポリスラボ



## 株式会社イーエムシステムズと電子カルテシステムの共同開発会社を設立

2010.2

(株)イーエムシステムズ(証券コード:4820)と当社は、それぞれが有する医療システムに係わる知識や経験、ノウハウを活用し、連携して電子カルテシステムを開発することを目的に共同開発会社を設立することを合意しました。

従来の当社電子カルテ(メディカルステーション)シリーズに加え、製品ラインナップを拡充させ、ユーザーサービスの向上を目指してまいります。

### 共同開発会社の概要

商号:株式会社メデファクト  
所在地:東京都港区芝一丁目  
事業内容:電子カルテシステムの開発  
資本金:4,500万円  
設立年月日:2010年2月1日  
出資比率:50%:50%

# 株式の状況 (2010年3月末現在)

## ◇ 発行済株式の総数

22,007,363株

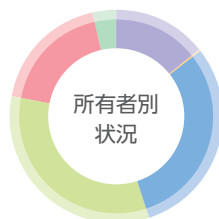
## ◇ 単元株式数

100株

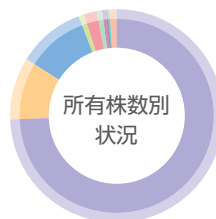
## ◇ 株主数

3,667名

## ◇ 株式分布状況



◆ 金融機関	14.2%
◆ 金融商品取引業者	0.5%
◆ その他の国内法人等	30.3%
◆ 個人・その他	33.1%
◆ 外国法人等	18.4%
◆ 自己株式	3.5%

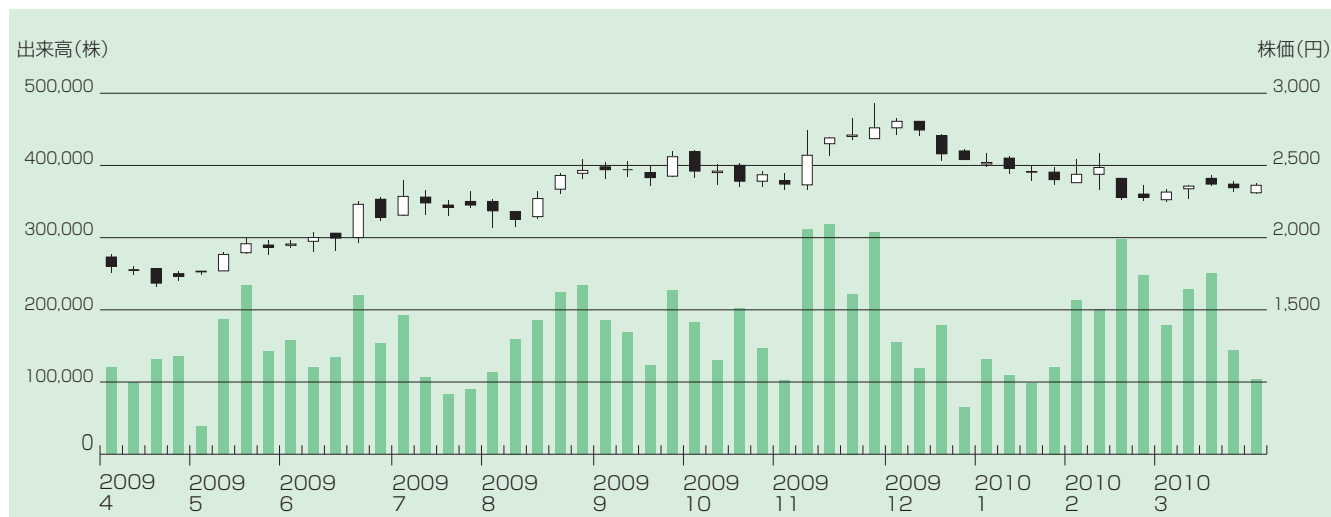


◆ 1単元以上	74.7%
◆ 5単元以上	9.2%
◆ 10単元以上	10.3%
◆ 50単元以上	1.0%
◆ 100単元以上	2.0%
◆ 500単元以上	0.7%
◆ 1,000単元以上	0.5%
◆ 5,000単元以上	0.1%
◆ 10,000単元以上	0.2%
◆ 1単元未満	1.3%



◆ 北海道	1.9%
◆ 東北	2.2%
◆ 関東	49.1%
◆ 中部	12.7%
◆ 近畿	18.3%
◆ 中国	4.3%
◆ 四国	3.1%
◆ 九州	4.6%
◆ 外国	3.8%

## 株価チャート



# 会社概要

## 会社概要 (2010年3月末現在)

### 株式会社ビー・エム・エル

本 社 〒151-0051  
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3  
 TEL: 03-3350-0111 (代表)  
 URL: <http://www.bml.co.jp/>  
 〒350-1101

### BML総合研究所

埼玉県川越市の場1361-1  
 TEL: 049-232-3131 (代表)

設 立 1955年7月  
 資 本 金 60億45百万円  
 従 業 員 数 2,946名 (連結) 1,600名 (単独)  
 事 業 内 容 臨床検査の受託業務等

公告掲載URL <http://www.bml.co.jp/>

(ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

## 役員及び執行役員 (2010年6月25日現在)

代表取締役最高顧問	近藤 健次	社 長*	荒井 裕
代表取締役社長	荒井 裕	副社長執行役員*	福田 和太
取 締 役	福田 和太	常務執行役員*	是安 俊之
取 締 役	是安 俊之	常務執行役員*	大塚 敬
取 締 役	大塚 敬	常務執行役員*	荒井 信貴
取 締 役	荒井 信貴	執 行 役 員*	近藤 健介
取 締 役	近藤 健介	執 行 役 員*	中村 貞博
取 締 役	中村 貞博	執 行 役 員*	田中 実
取 締 役	田中 実	執 行 役 員*	田邊 弘
取 締 役	田邊 弘	執 行 役 員*	山下 勝司
取 締 役	山下 勝司	執 行 役 員	工藤 康之
取 締 役	稲永 勉	執 行 役 員	千喜良真人
常勤監査役	西村 昌春	執 行 役 員	須田 英也
監 査 役	山村 敏夫		
監 査 役	齋藤 敏雄		

\*社長及び取締役9名は、執行役員と兼務になります。

## 連結子会社一覧 (2010年3月末現在)

	資本金 (千円)		資本金 (千円)
株式会社 BMLライフサイエンス・ホールディングス	100,000	株式会社 ピーシーエルジャパン	20,000
株式会社 BMLフード・サイエンス	100,000	株式会社 東京公衆衛生研究所	20,000
株式会社 オー・ピー・エル	98,000	株式会社 愛媛メディカルラボラトリー	20,000
株式会社 ラボテック (千葉県市原市)	95,000	株式会社 ジャパンクリニカルサービス	20,000
微 研 株式会社	90,000	株式会社 メリッツサポートシステムズ	20,000
株式会社 協同医学研究所	60,000	株式会社 第一臨床検査センター	10,000
株式会社 メリッツ	30,000	株式会社 第一臨床医学検査センター	10,000
株式会社 アレグロ	30,000	株式会社 盛岡臨床検査センター	10,000
株式会社 松戸メディカルラボラトリー	30,000	株式会社 ラボテック (長崎県佐世保市)	10,000
株式会社 日研医学	25,000		

# 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会権利行使株主確定 3月31日 株主配当金受領株主確定 3月31日 中間配当金受領株主確定 9月30日
株主名簿管理人	日本証券代行株式会社 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 (〒103-8202) 株式お手続き用紙のご請求をインターネットでもお受け付けいたしております。 URL <a href="http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html">http://www.jsa-hp.co.jp/name/index.html</a>

## 各種手続のお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等  
証券会社をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。  
証券会社をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行へお申出ください。

(電話お問合せ・郵便物送付先) 日本証券代行株式会社  
東京都江東区塩浜二丁目8番18号  
(〒137-8650)

## けんこう豆知識 ～夏場の食中毒に気をつけましょう～

### 食中毒とは

細菌やウイルスが付着した食品や、有毒・有害な物質が含まれた食品をヒトが食べることにより、下痢や嘔吐、腹痛、発熱などの胃腸炎を主とする健康被害をいいます。

なかでも70%を占める細菌性食中毒は、梅雨から夏にかけての高温多湿の環境で最も多く発生します。簡単にできる予防法を紹介しますので、習慣的に行うようにしましょう。(細菌性食中毒とは、サルモネラ属菌、チフス菌、腸管出血性大腸菌(O-157など)、コレラ菌、スドウ球菌、ポツリヌス菌などの細菌による食中毒)

### 食中毒防止の三原則

#### ①菌を増やさない ⇒ 冷蔵・冷凍

冷蔵庫や冷凍庫は詰めすぎに注意(最大容量の7割程度)し、肉や魚などはビニール袋や容器に入れ、庫内の他の食品に触れないようにします。細菌の多くは10℃では増殖がゆっくりとなり、-15℃では増殖が停止しますので、庫内の温度管理にも気をつけましょう。

#### ②菌に触れない ⇒ 清潔・清掃

肉、魚、卵などを扱うときは、必ず手指を洗います。また生の肉や魚を切った包丁やまな板は、そのまま使い続けず、洗ってから熱湯をかけた後に使うようにしましょう。タオルやふきんは清潔なものともこまめに交換します。漂白剤に一晩つけておくと消毒効果があります。

#### ③菌を殺す ⇒ 加熱・殺菌

加熱する食品は十分に加熱しましょう。中心部の温度が75℃で1分間以上の加熱がめやすです。食品は調理後でも、常温で長く放置するのは避け、温め直すときも75℃をめやすに十分に加熱します。味噌汁やスープは沸騰するまで加熱しましょう。

### (株)BMLフード・サイエンスの食品衛生事業

当社グループの(株)BMLフード・サイエンスでは「食材・調理品・加工品の微生物検査」、「食品工場・厨房設備等の環境検査」や「食品取扱者の微生物検査」の3つの分野を食品業界から受託、食環境の衛生管理を総合的に支援しています。